飯田女子短期大学紀要 第32集，195-204，2015

高校生を対象とした性教育を実施した助産学生の学びと課題

中山美香・本島幸子・北林ちなみ

Learning and problem of midwifery students who carried out the sex education for high school students

Mika NAKAYAMA，Sachiko MOTOJIMA and Chinami KITABAYASHI

要旨：A短期大学で助産学を学んでいる学生（以下，助産学生という）が高校生に性教育を実施する機会を得た．実施後，同意を得られた助産学生6名の学びの結果から今後，助産学生が高校生を対象とした性教育を効果的に行うための検討を行った．

事前準備では高校生を対象とすることを意識し内容も考えられていたが，具体的な実施内容と方法が曖昧で戸惑いも見られた．性教育は高等学校の指導要領に基づいた内容調整が必要であり，依頼者側（高等学校）との調整の場が必要であることが明らかとなった．授業内容では女子生徒を対象とした助産学生の方が，ライフプランに関する内容まで広く話題に上がっていた．男子生徒を対象とした助産学生は運営に困難を感じており，男子生徒の興味がどこにあるのか把握が難しかったと考えた．異性への理解を深め，正しい知識の提供と生命の大切さを効果的に伝えられる授業内容と技術習得の教育を検討していく必要性が示唆された．

Key words：性教育（sex education），高校生（high school students），助産学生（midwifery students）

はじめに

1999年に男女共同参画社会基本法が策定された．この法律は女性も男性もお互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い，性別に関わりなくその個性と能力を発揮する社会を実現することを目ざしたものである[1]．その重点項目の中に生涯を通じた女性の健康支援が挙げられ，基本的方向性としてリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する意識の浸透が示されている．具体的施策として「学校における性教育の充実」と「性に関する学習機会の充実」が挙げられる．小山田は性教育を思春期の健康教育と位置付けている[2]と述べており，学校における性教育の必要性は言うまでもない．

小中学校および高等学校の教員が行う性教育は学校指導要領に準拠した指導であり，教育基本法により児童生徒の人格形成の完成を目的としており，教育課程に基づく教育活動と生活指導に位置付けられている[3]と言われている．先行調査によると，高校生への性教育の場は学校が90％近くを占め，専門機関・専門職による教育は少なく，養護教諭や保健体育の教員が携わることが多い現状が明らかとなっている．学校の教員が性教育を実施することで児童生徒の日々の生活面に継続的に関われる機会があり，授業後のフォローを行うことができるというメリットがある．C県の調査においては，外部講師による性教育講演会の実施状況は，高等学校で51.1％，中学校で21.4％，小学校で8.0％であった[4]と報告

2014年6月19日受付；2015年3月31日受理

している．年齢が高くなるほど養護教諭や保健体育の教員の授業だけではなく，専門機関・専門職による講義の必要性を感じていることが伺える結果である．学校で性教育を受けている児童生徒が多く，内容の充実が重要となってくる．

思春期にある人たちの性に関する情報源では，友人や先輩によるものが最も多く，正しい情報が得られていない可能性がある．小山田は，助産師は性に関する科学的知識を有し，生命，性に関わる事例に多く関わっている[5]と述べている．専門知識を持った助産師が性教育を行うことで，正しい知識を提供することが可能であり，また生命の誕生場面の具体的な事例を伝え，性に関する事だけではなく生命の大切さも伝えることができる．

今回，看護師の資格を持ち，助産学を学んでいる助産学生が，Ｂ高等学校からの依頼を受け，高校生の性教育を実施する機会が得られた．その経験から今後，高校生を対象とした性教育を効果的に行うために，実施した内容と方法について検討を行った．

用語の定義

性 教 育：①男性女性としての自己の認識を深め，自己肯定感を伴った順調な自我を発達させる，②人間尊重・男女平等の精神に基づき男女の人間関係を築くことができる，③家庭や社会の一員として必要な性に関する基礎的基本的事項を習得する[6]，ことを含む教育を指す．

高 校 生：高等学校において高校の教育課程を学んでいる生徒を指す．

助産学生：Ａ女子短期大学において３ヶ月間学んだ助産学の専門知識を持った学生を指す．

研 究 目 的

助産学生が高校生を対象とした性教育を効果的にするために，実施した内容と方法について分析し，今後専門知識を持った助産学生が行う効果的な性教育のあり方について検討する．

研 究 方 法

１）研究デザイン

半構造的質問紙調査

２）調査対象

Ｂ高等学校の高校２年生を対象とした性教育を実施したＡ短期大学助産学生８名中，研究の同意が得られた助産学生６名

３）調査期間

平成24年７月

４）調査方法

助産学生に対し，高校生の性教育実施前に研究目的・内容などを口頭で説明し質問紙を配付し，性教育実施後に質問紙を研究者のメールボックスへ投函するよう依頼した．

５）調査内容

1. 性教育実施前の事前準備内容，2. 性教育実施後に必要と思われた事前準備内容，3. 性教育の実際（時期・時間配分，運営方法，内容），4. 高校生と関わってみての感想，5. 意見・要望について調査を行った．

６）分析方法

1）質問の１～３，５の回答は意味内容の似たものをまとめ抽出した．抽出された内容を男子生徒対象、女子生徒対象，共通した内容の視点でまとめた．

2）４の回答は，類義ごとにまとめ，カテゴリーを求めた．

７）倫理的配慮

1）対象者に研究の趣旨・目的の説明を口頭で行った．

2）アンケートは無記名とし，個人が特定されないよう匿名性を確保した．また得られたデータは鍵のかかる場所で厳重に保管し，研究をまとめた後はシュレッターにかけて破棄し個人情報の保護を厳守することを約束した．

3）研究への参加・協力は自由意思であり，研究への協力に同意しない場合であっても不利益を受けないことを保障した．
4）得られた結果を正しく解釈し，結論を導きだすように複数人で分析を行った．
5）アンケートが提出された時点で、同意が得られたものとした．

結　　果

対象学生８名のうち６名（75%）から有効回答を得た．担当内訳は男子生徒を対象とした助産学生４名，女子生徒を対象とした助産学生２名であった．

男子生徒を対象とした助産学生の回答を「男子生徒対象」，女子生徒を対象とした助産学生の回答を「女子生徒対象」，男子と女子生徒対象で共通した回答を「共通した」と以下に示す．

１．性教育の事前準備内容

共通して「簡単な授業計画（授業の流れ）」「授業で行った思春期の性教育についての見直し」「文献やインターネットでの学習」が挙げられた．具体的学習内容では男子生徒対象では「性感染症」が挙げられた．女子生徒対象では「女性の体の仕組み」「性感染症」「男の子について」「妊娠について」「避妊について」であった．共通していた内容は「性感染症」であった．

教材の準備としては共通して「受精卵の大きさの紙（0.1ミリメートルの穴）の作成」「ベビー人形の準備」が挙げられた．

２．性教育の事前準備内容で必要と思われた内容

1）自分の準備

「対象者の把握」と「事前学習」の２つの項目が挙げられた．

「対象者の把握」の具体的内容では，男子生徒対象では「高校生の興味，性に対しての考え」が挙げられた．女子生徒対象では「学校の特性」「高校生の興味，性に対しての考え」「一般的に言われている今までの性教育の内容」「対象の要望」であった．共通していた内容は「高校生の興味，性に対しての考え」であった．

「事前学習」の具体的内容では男子生徒対象では「性感染症について具体的な準備」「思春期について」が挙げられた．女子生徒対象では「どの質問にも答えられるよう項目ごとまとめておく」「何について疑問を抱きやすいのかを考えわかりやすく伝えるための準備をしておく」が挙げられた．共通した内容は挙げられなかった．

2）教員に対しての希望

男子生徒対象では「高校の保健の授業内容」「いきなり一人で多人数を相手に話しをするのは難しいので，事前に少し練習ができるようにしてほしかった」であった．女子生徒対象では「高校生がどのようなことを知りたいのか事前にアンケートなどにより知ればよかった」が挙げられた．共通した内容は「先生方が行っている様子や前回の授業内容を知りたかった」であった．

３．性教育の実際

１）時期・時間配分について

時間は１時間15分を予定し実施した．男子生徒対象では「生徒の興味がどこにあるかわからず，進めていくのが難しかった」「内容が浅くなってしまった」が挙げられていた．女子生徒対象では「始まるまでが少し時間がかかった」「最後あまり質問の時間がとれなかった」「ちょうど良かった」が挙げられた．共通した内容は「質問がないと１時間15分でも長く感じた」であった．

２）運営方法について

Ｂ高等学校の２年生への性教育の依頼を受け実施した．高校の教員からの依頼で，男子生徒４グループ，女子生徒４グループ編成し，１グループに１名の助産学生が担当した．

会場の配置は，椅子を円形に並べ，話しやすい雰囲気を作ったことが挙げられた．さら

に導入の部分ではアイスブレイクを行ったり，最近の話題を話し雰囲気作りや興味関心が持てる工夫を行っていた．

実際の運営については，女子生徒対象では「出た会話から広げていく方法」「生徒に知っている言葉を出してもらいながら，出た言葉に関連させながら知識を与えていく」が挙げられた．共通した内容は「授業形式だが質問も一緒にして生徒の参加も促す」「質問の時間をつくる」が挙げられた．

3）教育内容

男子生徒対象では「受精の過程と妊娠経過」「女性の体への負担」「若年妊娠のリスク」「もし相手を妊娠させてしまったら」「相手を思いやるとはどんなことか」「更年期」についてであった．女子生徒対象では「月経」「精子と卵子の寿命」「受精の時期・タイミング」「妊娠時の体重増加」「出産」「結婚」「ライフプラン」「高校生の恋愛について」「思春期」についてであった．共通した内容は「妊娠」「ベビー人形を使っての抱き方」「ベビー人形を使い実際の赤ちゃんの重さの体験」「避妊」「性感染症」「男女の恋愛や性に対する考え方の違い」であった．

「月経」についての具体的内容は主に排卵の時期について教育されていた．「妊娠」についての具体的内容として男子生徒対象では「受精の過程と妊娠経過」「女性の体への負担」「若年妊娠のリスク」「もし相手を妊娠させてしまったら」が挙げられた．女子生徒対象では「精子と卵子の寿命」「受精の時期・タイミング」「妊娠時の体重増加」が挙げられた．「ライフプラン」については就職や進学，結婚と関連させながら話をしていた．「出産」についての具体的内容は「帝王切開」「経腟分娩」「双子の出産」が挙げられていた．「赤ちゃんについて」の具体的内容は「ベビー人形を使っての抱き方」「ベビー人形を使い実際の赤ちゃんの重さの体験」が挙げられた．実施した教育内容について表１に示す．

表１　助産学生が実施した教育内容

n＝6

<table>
<tr><th>男子生徒対象</th><th>女子生徒対象</th><th>共通した内容</th></tr>
<tr><td></td><td>月経
・排卵の時期</td><td rowspan="7">妊娠
ベビー人形を使っての抱き方
ベビー人形を使い実際の赤ちゃんの重さの体験
避妊
性感染症
男女の恋愛や性に対する考え方の違い</td></tr>
<tr><td>妊娠
・受精の過程と妊娠経過
・女性の体への負担
・若年妊娠のリスク
・もし相手を妊娠させてしまったら</td><td>妊娠
・精子と卵子の寿命
・受精の時期とタイミング
・妊娠時の体重増加</td></tr>
<tr><td>相手を思いやるとはどんなことか</td><td>出産
・経腟分娩
・帝王切開
・双子の出産</td></tr>
<tr><td>更年期</td><td>結婚</td></tr>
<tr><td rowspan="3"></td><td>ライフプラン
（就職　進学　結婚）</td></tr>
<tr><td>高校生の恋愛について</td></tr>
<tr><td>思春期</td></tr>
</table>

4．高校生と関わり感じたことについて

助産学生は高校生をどのようにとらえ，また性教育を行いどのように感じたのかについて得られたデータから分析を行った．素データは26データであり，抽象度を上げ，３つのカテゴリーを生成した．表２に示す．

＊【 】はカテゴリー，〔 〕はサブカテゴリー，〈 〉は素データを表す．

１）【高校生の性質】

このカテゴリーは，高校生の言動を受けて助産学生が高校生をどうとらえたかを表し〔表向き〕，〔高校生の本心〕の２サブカテゴリー

表２　性教育実施後の助産学生の意見・感想

n＝6　素データ＝26

カテゴリー	サブカテゴリー	内　　容
高校生の性質	表向き	高校生にしてみると，性教育は真面目に聞いていられないと思った
		恥ずかしいだけなのかと思った
		茶化されてしまうことがあった
		後ろを向いて話を聞いていなかったりニヤニヤしている子がいたが，高校生はこんなものかと思った
		興味のあることについては積極的に話してくれたが，逆に興味のないことは静かになった
		あまり積極的ではなく，黙ってしまう人も多かった．話を振ったら話してくれた
	高校生の本心	きちんと話を聞いてくれた
		しっかり聞いてくれる子や，まとめてくれる子がいて助かった
		気を遣ってくれる優しい面がある
		話が止まったら助けてくれようとした
		特に男子は複雑だと感じた
新たな発見	実施後の高校生に対する見方	進路や将来について気持ちが聞けて良かった
		恋愛について聞け，現代の高校生の性行為の現状や価値観が知れた
		体に対して関心を持っているのだと思った
		月経について不安が聞けた
		思春期という身体・心共に育っている
		高校生は高校生なりに考えている
		自分の考えを持っていた
		思っていたよりも現実的な考えが聞けて安心した
	実施後の変化	性感染症について「怖い」という気持ちを持ってもらえた
		「子供いらない」と言っていた生徒が，講義終了後に変化があって嬉しかった
助産学生の実施するにあたっての思い		素直で率直な質問もあり，自分の勉強になった
		頼りない私に性について聞こうと思うのは無理
		男子高校生と，どう話したらいいかわからなかった
		自分は勉強していてわかっていても，人に伝えるのが難しいと思った
		とにかくエネルギーが必要

から構成された．

〔表向き〕は，高校生の表面上に現れた姿を表し，〈高校生にしてみると，性教育は真面目に聞いていられないと思った〉，〈興味のあることについては積極的に話してくれたが，逆に興味のないことは静かになった〉などの記述から抽出された．

〔高校生の本心〕とは，助産学生がとらえた高校生が持っている本質的な部分を表し，〈きちんと話を聞いてくれた〉，〈しっかり聞いてくれる子や，まとめてくれる子がいて助かった〉などの記述から抽出された．

2）【新たな発見】

このカテゴリーは，学生が高校生に性教育を実施してわかったことや，実施後の高校生の変化を示すものであり，〔実施後の高校生に対する見方〕，〔実施後の変化〕の2サブカテゴリーから構成された．

〔実施後の高校生に対する見方〕は，学生がとらえた高校生の現在の思いや価値観に関するものであり，〈進路や将来について気持ちが聞けて良かった〉，〈恋愛について聞け，現代の高校生の性行為の現状や価値観が知れた〉などという記述から抽出された．

〔実施後の変化〕とは，性教育実施後の高校生の変化を表し，〈性感染症について「怖い」という気持ちを持ってもらえた〉，〈「子供いらない」と言っていた生徒が講義終了後に変化があって嬉しかった〉という記述から抽出された．

3）【助産学生の実施するにあたっての思い】

このカテゴリーは，助産学生の性教育実施後の率直な感想であり，〈素直で率直な質問もあり，自分の勉強になった〉，〈頼りない私に性について聞こうと思うのは無理〉という記述から抽出された．

5．意見と要望

男子生徒対象では「男子の考えを知ることで精いっぱいで，性の安全について知識を深めることはできなかった」「初めてで一人は厳しかった」「男子の中で一人で運営するのはとても疲れる，エネルギーが必要」「生徒が参加しようと頑張ってくれてうれしかった」「緊張したけど自分の勉強になって楽しかった」が挙げられた．共通した内容は「準備不足であった」が挙げられた．

要望として男子生徒対象では「同性を相手に行いたかった」が挙げられた．共通した内容としては「具体的に何を教育してほしいと指定してもらった方が運営しやすかった」「その高校でどんな性教育を行っているか，どこまで伝えていけばいいのかわからなかったので事前に知りたかった」が挙げられた．

考　　察

学校において助産師が性教育を行う場合，性教育の場に生徒と学校の教員がともに参加し，授業後の生活指導に役立てるよう学校の教員と助産師の連携を持つことは重要である．さらに，性教育を実施した助産師は授業の評価のために，授業後の生徒の意識，生活面の様子や生活行動の変容を学校の教員との連携を通して把握していく必要がある．高校3年生の生徒が性教育を受けたい人物の調査によると，専門職が58.6%，保健体育の教諭18.5%，養護教諭16.3%であった[7]ことからも，専門職のニーズは高い．専門教育を受けている助産学生が行う性教育の意義には，専門知識を活用した教育ができることと高校生にとって年齢が近いこと，特に女子生徒には同性であり相談しやすいというメリットが挙げられる．

今回の調査では，専門知識を持つ助産学生が性教育を実施するうえで，簡単な授業計画を行っていること，授業で行った思春期の性教育についての見直しや文献・インターネットでの学習が事前準備内容として挙げられている．現在，思春期についての学習は，助産診断・技術学Ⅳにおいて行っている．授業内容は思春期に関する基礎知識を含め，健康教育を実施するための相談技術，教育技術も

学ぶ．今回，性教育を行った時期は授業が終了しており実施する時期としては適切であり，内容に関しても学習したものを踏まえて準備を進めることができたと言える．

高校生に伝えたい一般的な性教育内容には，避妊•人工妊娠中絶•性感染症•HIV/AIDSの知識が必要とされている．その中で，性的欲求と性行動，性的人権の尊重の教育を行い知識だけでなく行動が取れるための教育が必要と言われている．実際に行った性教育の内容をみると，月経や妊娠，避妊，性感染症といった知識的な項目やベビー人形を使って実際の赤ちゃんを想像できるような体験，男女の恋愛や性に対する考え方の違いや相手を思いやることなどといった心理的な面を考えられるような内容が挙げられ，高校生にとって必要な知識の提供は適切であり，性的欲求と性行動，性的人権の尊重の教育も実施できていた．現在，性に関する社会問題として援助交際やデートDVが挙げられている．援助交際は，買う側の大人の問題もあるが，性を商品と考える若者の性の捉え方にも問題はある．性感染症との問題も含め性モラルに対しても教育が必要といえる．デートDVに関しては男女の恋愛や性に対する考え方の違いも含め，DVとはどんな態度や行動なのか知識を提供すること，相手を尊重する必要性と行動をどのように取っていくのか学習する機会も必要となる．これらを学ぶ方法として，ベビー人形を使っての体験は生命の大切さ・重さや愛おしさを感じることの体験であり，また性教育の事前準備で作成した受精卵の大きさの紙を見せることにより生命の神秘・尊厳も感じられ効果的な学習方法であったといえる．より効果的に性教育ができるように助産学生への授業の提供が必要である．

次に，生徒にとって年齢が近く，特に女子生徒では同性であるというメリットについては，ピアカウンセリングの役割を果たしていると考えられる．ピアカウンセリングとは，似た立場にある同年代の仲間同士で相談しあうことをいう．実際の性教育の場では，性に関して正しい内容を学んだ同世代の若者が中心となり，性や避妊について正しい情報を提供し，カウンセリーの問題に対してカウンセリー自身が解決策を見出し，自分で責任のもてる行動について意思決定できるサポートをする[8)]と言われている．目的を達成するための準備として，性教育の事前準備内容では女子生徒を対象とした助産学生は女性のからだのしくみや妊娠についてなど，女子生徒にとってより具体的になる準備学習をすすめていた．これは同性として仲間意識が働き，自分が思春期に経験した学習や気持ちから女子生徒の希望する内容を予測し，準備につなげていったと言える．性教育の事前準備内容で必要と思われた内容でも学校の特性や対象の要望，何について疑問を抱きやすいのか考え，わかりやすく伝えるための準備をするなどより具体的な内容や方法の準備につながっている．実際の教育内容でも出産の形態やライフプランなどは今後の進路や将来に及ぶ内容になっていることから，共に考える性教育であったと言うことができる．

運営方法では，生徒達の会話内容から話を広げたり，生徒から出された言葉に関連させながら知識を与えていくなど授業的な形式をとっているが，生徒自身が問題認識を持てるように意識して関わっていくことができているといえ，効果的であったと考えられる．

今回の性教育の対象である高校生は思春期後期にあたり，性の芽生えが起こり，身体や性に関しての種々の疑問や不安を抱く時期である．しかし，性は秘めたもので語りづらいという性質を持っており，性に関して自己開示をすることは難しい．今回，性について興味を示し，助産学生の話に耳を傾けてくれた高校生もいたが，その反面，話を聞いてくれなかったり，積極的に参加してくれなかったりする高校生の姿もみられた．高校生の特徴

を踏まえ，あらかじめ高校生の負の反応もありうることを想定した上で関わっていく必要性があると考える．

性教育実施後のアンケートでは，性教育を行うことに対する自信のなさや，特に異性である男子生徒に対する関わりが難しかったという意見があった．今回，高校生に性教育を行うことは助産学生にとって初めての経験であったことから，緊張などのストレスが強かったこと，また，高校生が自分の話を聞いてくれるのだろうかというナーバスな思いを持っていたことが考えられる．しかし，性教育実施前後で高校生の変化がみられて嬉しかったなどの肯定的な意見もみられた．自分の行った性教育が高校生に与えた影響を評価し，高校生，そして自分自身に注目し，双方向からの学びができたのではないかと考える．また，高校生の気持ちが聞けたり，現代の高校生の性に関する現状や価値観を知ることができよかったという意見から，充足感・達成感のある経験ができたと考える．こうした経験は，実際に実施することによって初めて得られる成功体験であり，今後の助産師活動につながるのではないかと考える．

助産学生が性教育を実施するに当たり課題となった点も見られた．助産学生が助産学専攻の教員に対して望むことでは，助産学専攻の教員が行っている様子や高等学校で行われた前回の授業内容を知りたい，高等学校の保健授業内容を知る，高校生がどのようなことを知りたいのか事前にアンケートなどにより知ればよかったことが挙げられた．大村は，講師依頼があった時，学校に確認してほしいこととして ①その学校と生徒の状況把握．特に性に関する状況について ②どのような環境で授業あるいは講演を行うのか，指導内容のポイントはどこか，教員のニーズ ③対象者数，生徒の特質，聞く態度 ④管理職を含む職員間で意思の疎通がなされているかを挙げている[9]．授業計画を準備するうえで，何をどのように伝えるのか決めるのは，依頼者（高等学校）の希望による．依頼者（高等学校）と実施者の思いが違うと性教育は過激であるとか内容が行き過ぎているといった反応も見られ，依頼者（高等学校）の性教育の考え方で方法と内容が決まってくると言える．助産学生が行うに当たり，助産学専攻の教員は依頼者側（高等学校）と高等学校の学習指導要領に基づいた内容調整が必要であり，高等学校で行ってきた性教育の内容を活かすためにも事前調整が必要と考える．現在システムの構築には至ってないが，依頼者（高等学校）から依頼が来た時点で性教育の目的と学習目標，授業後の生徒になって欲しい姿を高等学校の教員と確認する必要がある．そのうえで，希望に沿った教育ができるよう助産学生に指導が必要である．また，単発での関わりになるため，授業後のフォローが不充分で，行動変容につながったのか把握できないことが考えられる．

以上のことから前述したように，性教育後の授業評価での連携も必要であるが，性教育の事前準備の段階から高等学校の教員との連携も必要である．

運営方法においては，男子生徒を対象とした助産学生からは異性を対象に話をすることの困難さなどの意見が聞かれた．助産学生が女子生徒を対象とした場合は前述したよう自分が思春期に経験した学習や気持ちから女子生徒の希望する内容を予測でき，提供する知識もある．しかし，男子生徒が対象であると文献上などでの知識に留まり，身近に兄弟の異性がいたとしても性に関する内容は関わりにくい部分でもある．生徒の興味がどこにあるかわからず，話を進めていくのが難しく，男子の考えを知ることで精いっぱいで性の安全について知識を深めることができなかったという点から，自分自身が経験していない未知の対象に対しての戸惑いがあったといえる．学内での準備状況をみても，女子生徒を対象

とした助産学生と比較すると，事前学習の内容でも大きな項目で捉え具体性に欠ける準備内容であった．運営方法は女子生徒を対象とした助産学生と変わらず，授業形式を基本として質問を発しながら，生徒の参加を促す方法がとられたが，思うように進まなかったことが女子生徒を対象とした助産学生に比べると，達成感に乏しい結果となったと考える．加藤らは，女子は有意に「異性」の影響を受け，「学校の授業」の影響を受ける特徴から，学校の授業を充実させることと男子生徒への授業内容では男子生徒が女子生徒へ及ぼす影響が大きいことについて自覚を促す内容を加味する必要があると述べている．また，男子生徒は「ビデオやDVD」の影響を受けやすく，視聴した内容が誤っていてもそのまま受け入れてしまう傾向にある[10)]と報告している．効果的な性教育を実施するにはこの差を理解し準備が必要といえるが，今回は性差による学習方法に違いを考慮することが不足していた．今後，助産診断・技術学Ⅳの授業の中で異性への理解を深められるように考えていく必要がある．

助産学生が行う性教育は専門職の領域に含め考えてきたが，まだ学習段階にあるため教育技術・相談技術の手法は未熟である．緊張や対応への不安が生じるのは仕方がないことである．今回は助産学専攻の教員と依頼者（高等学校）との打ち合わせが不足しており，対象のニーズが不明確であった．ニーズを把握することでより具体的な準備につながり，緊張や対応への不安を軽減でき性教育に望めると考える．助産学専攻の教員と依頼者（高等学校）との打ち合わせの場を持ち助産学生へ情報を提供することが必要である．また今回は性教育の事前準備内容についても，助産学専攻の教員による確認やデモンストレーションの時間が取れなかったため，より効果的な性教育の技術をつけられるようデモンストレーションの時間を設ける必要があると考える．

助産師には発達段階に応じた性や生命に対する指導技術が求められる．学校現場での実際の性教育の機会は学生に多くの学びと達成感を得ることができるため，このような機会を設けることが必要であると考えられる．

結　　論

1．助産学生が高校生を対象に性教育を行うことは，主体的に準備に臨め，さらに学びの効果につながる．
2．助産学生が行う性教育は専門的な正しい知識の提供と生命の大切さを伝えるができ，また教材も効果的に活用できることからも意義がある．
3．実施するに当たり，依頼者側（高等学校）と助産学専攻の教員間でニーズの調整の場を設けることが必要である．また，授業内容の評価のためにも，授業後の生徒の意識，生活面の様子を把握する必要がある．
4．助産学生が異性への理解を深められるよう学内での教育が必要であり，学内でのデモンストレーショ等を通じて技術習得のため教育方法の検討の必要性が示唆された．

研究の限界性

今回は，地域が限定され対象とする高等学校も１校であった．また，調査数も少なく一般化ができないため，今後さらに対象を広げ調査が必要である．また，授業後の高校生の意識や生活の変化について調査をしていないため，授業内容の妥当性がいえない．今後，より効果的な性教育のために調査が必要である．

引 用 文 献

1）川島広江：現代社会において助産師が性教育をになうということ．助産師のための性教育実践ガイド（川島広江，大石時子編集），医学書院，東京，2007，p.3.
2）小山田信子：助産師の新しい仕事－性教

育とのかかわり．周産期看護学アップデート（吉沢豊予子編集），中央法規出版株式会社，東京，2008, p.257.
3）同上，p.257.
4）阿部真理子：学校性教育のアウトライン．助産師のための性教育実践ガイド（川島広江，大石時子編集），医学書院，東京，2007, p.37.
5）前掲，周産期看護学アップデート（吉沢豊予子編集），p.257.
6）同上，p.256.
7）加藤千恵子：高校３年生の性に関する知識と意識－今後の性教育の在り方を考える－．日本看護学会論文集母性看護（39），81-83，2009.
8）桑名佳代子：セクシュアルヘルスとリスク回避行動．助産師基礎教育テキスト第２巻女性の健康とケア（吉沢豊予子編集），日本看護協会出版会，東京，2009, p.288.
9）大村アヤ子：高等学校養護教諭が助産師に望む性教育．助産師のための性教育実ガイド（川島広江，大石時子編集），医学書院，東京，2007, p.107.
10）加藤千恵子：高校１年生の性知識と性意識の変化から見るピア・エデュケーションの効果．日本看護学会論文集母性看護（40），135-137，2010.